

2016年(平成28年)9月9日 金曜日

# 子供に魚食普及を

サッポロホールディングス  
タブレット端末寄贈  
気仙沼

大手ビールメーカー

のサッポロホールディングスは8日、東日本大震災からの復興支援として、「気仙沼の魚を学校給食に普及させる会」に対し、タブレット端末18台を寄贈した。市内小学校の総合学習での食育教育に活用される。

同社の野瀬裕之取締役らが市役所を訪れ、普及させる会会員で気仙沼商工会議所の白井賢志名誉会頭に目録を手渡した。写真。

タブレット端末(約140万円相当)の購入費には、昨年9月に東京の恵比寿ガーデンプレイスで開かれた

延命菩薩像は、鎌倉後期の作で、三陸沿岸地域で鎌倉時代の仏像が収められている寺は少ない。地域の文化財を見つめ直し、地元だけでなく、日本の歴史をひも解くきっかけになれば」と話した。



普及させる会によるタブレット端末の贈呈式

「恵比寿麦酒祭り」で販売した生ビールの売上金の一部が充てられている。

野瀬取締役は「未来をつなぐ子供たちに夢を持ってもらえるような取り組みを今後も応援していきたい」と語った。これに対し、白井名誉会頭は「大変ありがたい。今後も支援をお願いしたい」と感謝した。

普及させる会では、2014年から市内外の小学校5年生を対象に、マグロはえ縄の漁法など気仙沼の水産業を学んでもらう特別授業を実施。タブレット端末を使って映像や写真も紹介している。